

学校監査

監査対象 小学校31校、中学校15校

監査期間 令和7年9月9日～令和8年1月8日

学校監査では、市立小学校及び市立中学校における学校長の権限に係る事務の執行及び学校施設の管理状況等について、関係書類の調査、関係職員からの説明の聞き取り、現地調査を行いました。

監査の結果、4件の指摘と5件の指導を行いました。

また、静岡型小中一貫教育などについて、4件の意見を付しました。

★主な指摘事項

理科準備室の薬品の管理について

- ・劇物である硫酸の容器に表示すべき「白地に赤字での『医薬用外劇物』」という表示がされていませんでした。 【東中学校】
- ・劇物である水酸化ナトリウムの容器に表示すべき「医薬用外劇物」の表示がありませんでした。 【清水第三中学校】
- ・小分けした薬品の容器（小瓶）に薬品名が記載されておらず、また、その小瓶は、薬品名の書かれたケースにも保管されていなかったため、薬品名が不明な状態となっていました。 【清水第三中学校】

●主な意見

・いじめ防止に係る取組について

東中学校と竜南小学校では、いじめを覚知した際には教育委員会の指導の下で組織的に対応しており、被害児童生徒に寄り添いながら、加害児童生徒に対しても必要なケアを行うなど、丁寧な対応をしているとのことでした。また、人との関わり方を学ぶ場が必要であるとの考え方の下、アサーショントレーニングやソーシャルスキルトレーニングにも取り組んでいるとのことでした。

いじめの対応は、早期の覚知と迅速・丁寧な対応が重要です。いじめの事案に気付かず、重大な事態に陥ることがないよう、児童生徒からのSOSのサインに早期に気付き、組織的かつ適切に対応することに加え、自分の気持ちを表現することが難しい児童生徒や、他者の気持ちを理解することに課題を抱える児童生徒への支援にも継続して取り組むことを期待します。

そして、SNSを背景としたいじめなど、これまで以上に対応が複雑で難しくなっていると考えられることから、教職員の負担が軽減されるような支援体制の充実や教職員が相談できる環境が整備されていくことを望みます。

・静岡型小中一貫教育について

2022年度から開始した静岡型小中一貫教育に関し、竜南小学校は安東中学校のグループ校であることに加え、東中学校・観山中学校グループの連携校に位置付けられています。

東中学校では、「よこのつながり」を確保するため学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとして活動しており、地域の協力による読み聞かせや裁縫実習の支援など、地域の方の関わりにより学校運営が支えられているとのことでした。また、中学校の生徒会と小学校の児童会が一緒に挨拶活動を行っており、このような活動を連携校である竜南小学校に紹介し、竜南小学校に必要なことやできることを一緒にやっていくという形で取り組んでいるとのことでした。

竜南小学校では、複数の中学校に進学する小学校として、それぞれのグループの「いいとこ取り」ができるなどをメリットと捉え、それぞれのグループの会合に管理職が参加して情報交換を行い、教員間の垣根が低くなっているとのことでした。また、複雑な学区の状況から、コミュニティスクールは竜南小学校単独で導入されていました。

静岡型小中一貫教育は、学校間や地域との協働・交流を強化する中で、「つながる力」（社会的な絆）の育成を目指しています。東中学校や竜南小学校では、学校間がつながる取組が行われ、また、両校とも地域とつながり、地域と連携した教育に取り組んでいることがうかがえました。

今後、より一層、中学校グループを超えた交流が活発になされることで、児童生徒が進学前後の学校とのつながりを感じられるような取組が推進されることに加え、地域性を活かした特色ある取組が推進され、9年間を見通した教育活動が実践されることを望みます。